センス将棋

# 1 センス将棋とは

センス将棋は音声点字情報端末ブレイルセンスを使って将棋盤と駒を再現したアプリケーションです。実際の将棋盤に駒を並べなくとも、点字と音声で駒の配置や棋譜を確認することができます。スカイプなどを使って将棋を指す際の盤面確認や棋譜の保存、プロ棋士の棋譜データの確認などに使用すると便利です。

センス将棋の起動手順は以下の通りです。

1. メインメニューから「プログラム」を選択してEnterを押すか、メインメニューでrを押してプログラムメニューを開いてください。
2. 次にプログラムメニューからセンス将棋を選択してEnterを押してください。センス将棋が起動します。

# 2 盤面の表示

## 2-1 盤面

将棋盤は9列×九段の合計81マスです。センス将棋では盤面を一段ずつ点字と音声で表示します。センス将棋の起動時には初期配置の九段目が表示されます。上下スクロールキーを押すことで盤面を上下に移動して駒の位置を確認することができます。

また、下がり数字で１から9の数字を入力すると、入力した数字の段を指定して駒の情報を確認することができます。例えば2-6の点を押すと5段目の駒情報を表示します。

音声では将棋盤の列番号の若い順に駒の配置を読み上げます。

点字は将棋盤の1列をそのままの配置で点字表示します。

※駒の点字表記は3-2章で詳しく説明します。

具体的には以下の様に音声と点字で先手番の駒の初期配置が表示されます。

音声「9段目、先手1九香車、先手2九桂馬、先手3九銀、先手4九金、先手5九玉、先手6九金、先手7九銀、先手8九桂馬、先手9九香車」

点字（32マス）「　　　　こ　　け　　し　　き　　め　　き　　し　　け　　こ　＃９」

点字（20マス）「　こ　け　し　き　め　き　し　け　こ」

## 2-2 持ち駒の確認

盤面でF3を押すたびに、「先手持ち駒」、「後手持ち駒」、「盤面」が切り替わります。

## 2-3 先手後手の表示切り替え

盤面表示中にSpace-vを押すと先手と後手の表示を切り替えます。

後手番に切り替えると後手番を手前にして盤を表示する形になります。

後手番表示での先手の駒の初期配置の表示は

32マス「＃９　　こ　　け　　し　　き　　め　　き　　し　　け　　こ　　　」となります。

20マス「　こ　け　し　き　め　き　し　け　こ」

メニューから操作する場合、F2を押してメニューを開き、メニュー項目「表示」でエンターを押してください。先手番表示の状態ならば「後手番表示」、後手番表示の状態ならば「先手番表示」と表示されます。ここでエンターを押すと先手番表示と後手番表示が切り替わります。

## 2-4盤面読み上げ機能

盤面表示中にrを入力すると盤面の情報を、後手番・先手番の順に全て読み上げます。読み上げを途中で停止したい場合はエンターとバックスペースを同時に押してください。

オプションの設定で後手番の持ち駒を読み上げるかどうかを設定することができます。詳しくは8章をご参照ください。

詰将棋の盤面を確認する際に使用すると便利です。

# 3 点字による駒の表記

1駒は点字2マスで表します。点字1マス目は先手・後手の区別を表します。点字2マス目は駒の種類を表します。

## 3-1 点字1マス目：先手と後手の区別

先手の駒の点字1マス目はマス空けです。後手の駒の点字1マス目は3-6の点が入ります。

## 3-2 点字2マス目：駒の種別

点字2マス目には駒を表す点字が表示されます。各駒の点字表記は以下の通りです。

飛：ひ

角：か

金：き

銀：し

桂：け

香：こ

歩：ふ

玉：め

龍：る

馬：ま

成銀：み

成桂：せ

成香：そ

と金：と

例えば先手の飛車は「　ひ　」（18マスでは「　ひ」）、後手の角行ならば「-か　」（18ますでは「-か」）と表示します。駒の無い位置は次のように点字2マス目に2-5の点が表示されます。「　－　」（18マスでは「　－」）

# 4 指し手入力と対局メニュー

センス将棋起動時には初期配置の盤面が表示されます。センス将棋で盤面を確認しながら対局する場合、先手と後手の指し手を入力して局面を進めることができます。

メニューから操作する場合、F2を押してメニューを開き、メニュー項目「対局」を選択してエンターを押してください。対局メニューを実行します。対局メニューには以下の4つのメニュー項目があります。

1) 新規対局

2) 指し手入力

3) 待った

4) 投了

## 4-1新規対局

新たに盤面を初期配置にして対局を始めます。実行すると対局条件ダイアログボックスが表示されます。対局条件ダイアログは「手合い割り」リスト、「先手の名前」エディットボックス、「後手の名前」エディットボックス、「開始」ボタン、「キャンセル」ボタンで構成されています。F3を押すと項目を切り替えます。

「手合い割り」では、平手か駒落ちかを選択します。以下から選択してください。

1. 平手

2. 香落ち

3. 右香落ち

4. 角落ち

5. 飛車落ち

6. 飛香落ち

7. 二枚落ち

8. 三枚落ち

9. 四枚落ち

10. 五枚落ち

11. 左五枚落ち

12. 六枚落ち

13. 八枚落ち

14. 十枚落ち

先手の名前と後手の名前を入力すると対局の準備完了です。

「開始」ボタンに移動してエンターを押すと対局を開始します。対局をキャンセルする場合は「キャンセル」ボタンに移動してエンターを押すかSpace-zを実行してください。

## 4-2 指し手入力

新規対局または棋譜ファイルを読み込んで、差し手を入力していくことができます。

自分で対局するとき、途中局面から差し手を進めていくとき、人の対局を記録するときに使います。

エンターを押すと指し手入力を実行できます。

実行すると指し手入力エディットボックスが表示されます。

そこで、駒を移動する位置とその駒の現在地を入力すると駒を移動させることができます。位置情報は列と段の2ケタの数字で指定します。ブレイルセンスの入力モードは「英語」で行ってください。

例えば７六歩と指したい場合。「（数符）7677」と入力します。

先手後手と交互に指し手入力を行うことができます。

成り

移動先で駒が成ることが可能な場合、位置情報の後にnを付けて指し手入力することで成ることができます。

例えば8八角を3三角と指して馬に成る場合。「（数符）3388n」と入力します。

持ち駒を打つ場合は駒を打ちたい位置と駒の種類を入力します。

例えば5五飛と打ちたい場合。「数符55HI」と入力します。

HIが飛車を表します。各駒の種類はローマ字表記を元にした表記で指定します。駒入力キーは大文字でも小文字でも入力できます。

駒の表記については指し手入力の状態でSpace-F3を押すと駒表記リストを確認できます。

指し手入力画面でF3を1回押すと「飛：HI」と表示されます。これは飛車を打つ場合HIと入力することを示します。下スクロールを押すと角：、金：・・・とそれぞれの入力キーが表示されます。一覧は以下の通りです。

飛：HI

角：KA

金：KI

銀：GI

桂：KE

香：KY

歩：FU

駒の動けない位置に移動しようとするとエラーになります。指し手入力した駒の種類や位置に誤りがないかご確認ください。

## 4-3 待った

指し手入力を一手取消すことができます。ホットキーはBackspace-rです。

## 4-4 投了

投了する場合のホットキーはEnter-qです。

## 4-5 新規対局

新規対局を開始して盤面を初期状態に戻します。ホットキーはEnter-nです。実行すると対局条件ダイアログが表示されますので条件を入力して新規対局を開始してください。

# 5 棋譜の保存と読み込み

センス将棋は対局の棋譜を保存したり、棋譜データを読み込んだりすることができます。

メニューから操作する場合、F2を押してメニューを開き「ファイル」でエンターを押してファイルメニューを実行してください。ファイルメニューには以下の4つのメニュー項目があります。

1) 棋譜の読み込み

2) 棋譜の上書き保存

3) 棋譜の名前を付けて保存

3) 現在の盤面を保存

4) 終了

## 5-1 棋譜ファイルを読み込み

拡張子「kif」、「ki2」、「csa」の棋譜ファイルを読み込むことができます。

自分の対局データや公開されているプロ棋士の棋譜、将棋ソフト「柿木将棋」の棋譜等を読み込んでセンス将棋で棋譜の確認が可能です。

盤面表示時にホットキーのEnter-oを押しても実行できます。

現在の盤面で指し手が入力されている場合、棋譜を保存するかどうかの確認があります。スペースキーを押して「はい」か「いいえ」を選択してください。

「棋譜ファイルを読み込み」を実行するとファイル指定画面になります。ファイル管理の要領で読み込みたい棋譜データを表示してエンターを押してください。

棋譜を読み込んで盤面に最終局面を表示します。

※棋譜の確認と再生の詳しい方法は6章をご参照ください。

## 5-2 棋譜を上書き保存

自分の対局を棋譜ファイルに保存することができます。

棋譜ファイルに保存すると、一手目から現在までの対局内容を全て保存します。ホットキーはEnter-sです。既存の棋譜ファイルを保存しなおす場合同じファイル名で上書き保存します。センス将棋で作成した棋譜を初めて保存する際に実行すると「ファイル名：20150101.ki2」の様に日付をファイル名としたki2ファイル名が表示されます。

日付がファイル名で良ければそのままエンターを押してください。ファイル名を変えたい場合は編集してからエンターを押してください。

棋譜ファイルの保存場所を指定したい場合はファイル名のエディットボックスが表示された状態でF3を何度か押してください。フォルダリストが表示されますので保存先を指定してエンターを押してください。

## 5-3 棋譜の名前をつけて保存

自分の対局を棋譜ファイルに保存することができます。

棋譜ファイルに保存すると、一手目から現在までの対局内容を全て保存します。ホットキーはEnter-sです。実行するとファイル名が表示されます。ファイル名を変えたい場合は編集してからエンターを押してください。

棋譜ファイルの保存場所を指定したい場合はファイル名のエディットボックスが表示された状態でF3を何度か押してください。フォルダリストが表示されますので保存先を指定してエンターを押してください。

## 5-4 盤面を保存

表示されている盤面を保存することができます。棋譜と同じki2ファイルで保存されますが対局内容は保存されません。ホットキーはEnter-bです。実行すると「ファイル名：盤面20150101.ki2」の様に盤面＋日付をファイル名としたki2ファイル名が表示されます。

日付がファイル名で良ければそのままエンターを押してください。ファイル名を変えたい場合はファイル名を編集してからエンターを押してください。

ファイルの保存場所を指定したい場合はファイル名のエディットボックスが表示された状態でF3を何度か押してください。フォルダリストが表示されますので保存先を指定してエンターを押してください。

保存した盤面は「棋譜ファイルを読み込み」で再表示することができます。

# 6 棋譜の確認と再生

棋譜ファイルを読み込むと対局の最終局面を表示します。

その状態では最終局面の盤面や持ち駒の状態だけ表示されます。

棋譜として保存したファイルを読み込んだ場合Enter-rを押すと棋譜確認を開始します。

棋譜確認モードでは対局の初手から最後まで確認することが可能です。

メニューから操作する場合、F2を押してメニューを開き、メニュー項目「棋譜確認」を表示した状態でエンターを押してください。棋譜確認メニューを実行します。棋譜確認実行前のメニューでは棋譜確認開始を実行できます。

棋譜確認開始後は棋譜確認メニューに以下の6つの項目が表示されます。

1) 棋譜の先頭へ

対局の初手へ移動します。ホットキーはsです。

2) 棋譜の最後へ

対局の最終局面へ移動します。ホットキーはeです。

3) 一手進む

一手次へ棋譜を進めます。ホットキーはｎです。

4) 一手戻る

一手前へ棋譜を戻します。ホットキーはｐです。

5) 連続再生

連続再生は現在表示している局面から最後へ向かって自動的に棋譜を読み上げます。ホットキーはgです。自動再生を止める場合はスペースキーを押してください。再度自動再生する場合はgを押してください。

6) 棋譜確認終了

棋譜確認モードを終了します。終了すると盤面は最終局面の状態になります。ホットキーはspace-zです。

# 7 盤面編集

盤面編集は自由に盤面を作成する機能です。

対局の盤面を再現したり、詰将棋の盤面を保存したりすることができます。

メニューから操作する場合、F2を押してメニューを開いてください。次にスクロールキーを何度か押して「盤面編集」と表示されたらエンターキーを押して実行してください。盤面編集メニューに以下の2つのメニュー項目があります。

1) 新規編集

盤面に駒が全くない状態から編集します。ホットキーはEnter-eです。

2) 現在の盤面から編集

対局の盤面から編集を開始します。ホットキーはEnter-cです。

## 7-1盤面編集中の操作

盤面編集中にF3を押すたびに以下の編集項目が切り替わります。

1) 盤面

編集中の盤面を表示します。

2) 先手の編集（後手の編集）

後手の編集中には先手の編集へ切り替えます。先手の編集中には後手の編集へ切り替えます。エンターキーを押して実行します。

3) 持ち駒の編集

先手と後手の持ち駒を編集します。エンターで実行すると「持ち駒入力の選択」が表示されます。上下スクロールキーを押すと先手の持ち駒と後手の持ち駒を切り替えることができます。持ち駒を設定したい手番が表示された状態でエンターを押してください。

次に駒リストが表示されて各持ち駒の枚数を設定できます。駒の切り替えはF3、枚数の変更は上下スクロールで行います。持ち駒の枚数は各駒の総数以上に設定することはできません。

4) 手番選択

上下スクロールキーで盤面の手番が先手か後手かを選択します。実行すると選択した手番で盤面を保存します。

5) 保存して終了

盤面を保存します。

6) キャンセル

盤面を保存せずに盤面編集を終了します。ホットキーはSpace-zです。

## 7-2駒の配置入力

盤面編集中にエンターキーを押すと「駒の配置入力」を行います。先手の編集中は先手の駒、後手の編集中は後手の駒を入力できます。

駒の配置入力は配置する駒の位置情報と駒の種類を入力します。例えば３三歩と配置したい場合は「（数符）33（英字符）fu」と入力してエンターを押します。

駒配置入力時にF3を押すと駒の種類一覧を確認することができます。

以下駒の種類一覧です。

飛：HI

角：KA

金：KI

銀：GI

桂：KE

香：KY

歩：FU

玉：OU

龍：RY

馬：UM

成銀：NG

成桂：NK

成香：NY

と金：TO

# 8　オプション

オプションでは、以下の設定を行う事ができます。

1. 後手の持駒を読まない　オン/オフ

盤面読み上げ機能（ホットキー：ｒ）実行時に後手の持ち駒を読むかどうかの設定を行う事ができます。初期設定はオン（後手の持ち駒を読まない設定）です。

詰将棋の盤面を確認する際に便利です。スペースキーを押すたびにオンとオフを切り替えます。

1. 駒音　オン/オフ

指した際の駒音のオンとオフを切り替える事ができます。初期設定はオンです。スペースキーを押すたびにオンとオフを切り替えます。

1. 最後の着手を表示

最後の着手を表示するかどうか設定できます。初期設定はオフです。スペースキーを押すたびにオンとオフを切り替えます。

設定を変更したらエンターを押して設定を保存してください。

# 9　ホットキー一覧

盤面読み上げ：ｒ

## 9-1対局モード時

指し手入力：Enter

待った：Backspace-r

投了：Enter-q

新規対局：Enter-n

棋譜ファイルを読み込み：Enter-o

棋譜ファイルを保存：Enter-s

盤面を保存：Enter-b

新規盤面編集：Enter-e

現在の盤面から盤面編集：Enter-c

センス将棋の終了：space-z

## 9-2棋譜確認モード時

棋譜確認開始：Enter-r（棋譜ファイル読み込み後）

棋譜の先頭へ移動：s

棋譜の最後へ移動：e

一手進む：n

一手戻る：p

連続再生：g

棋譜確認の終了：Space-z

## 9-3盤面編集モード時

先手の編集（後手の編集）：t

持ち駒の編集：m

キャンセル：Space-z

## 9-4 駒の種類入力一覧

飛：HI

角：KA

金：KI

銀：GI

桂：KE

香：KY

歩：FU

玉：OU（盤面編集時のみ）

龍：RY（盤面編集時のみ）

馬：UM（盤面編集時のみ）

成銀：NG（盤面編集時のみ）

成桂：NK（盤面編集時のみ）

成香：NY（盤面編集時のみ）

と金：TO（盤面編集時のみ）

## 9-5 駒の点字表記一覧

飛：ひ

角：か

金：き

銀：し

桂：け

香：こ

歩：ふ

玉：め

龍：る

馬：ま

成銀：み

成桂：せ

成香：そ

と金：と